

掲 示 板

マッセ OSAKA からのお知らせ

* 5 ・ 6 月 の 研 修 案 内 *

研 修 名	対 象	研 修 実 施 日	申 込 締 切 日
地方財政研修	財政担当 職員	5月18日(月)	4月17日(金)
タイムマネジメント研修	全職員	5月29日(金)	4月28日(火)
業務改善研修	全職員	6月2日(火)～6月3日(水)	5月1日(金)
ワード研修1・2	全職員	6月2日(火)～6月5日(金) (各2日間)	5月1日(金)
エクセル基礎研修1・2	全職員	6月9日(火)～6月12日(金) (各2日間)	5月8日(金)
法制執務研修	全職員	6月10日(水)～6月11日(木)	5月8日(金)
創造性開発研修	全職員	6月16日(火)～6月17日(水)	5月15日(金)
エクセル応用研修1・2	全職員	6月16日(火)～6月19日(金) (各2日間)	5月15日(金)
政策形成研修	全職員	6月18日(木)～6月19日(金)	5月18日(月)
法律研修(地方自治法)	全職員	6月23日(火)・6月30日(火)	5月22日(金)
アクセス基礎研修1・2	全職員	6月23日(火)～6月26日(金) (各2日間)	5月22日(金)
複式簿記基本研修1	全職員	6月25日(木)～6月26日(金)	5月25日(月)

◆研修の申込方法や対象者等詳しい内容については、各市町村の研修担当へお問い合わせ下さい。

【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567

掲 示 板

* 研修実施報告 ⑦ *

～第69回マッセ・セミナー「行列のできる企画・広報・運営のあり方」～

日 時 平成20年12月19日（金） 15:00～17:00

講 師 NPO法人男女共同参画おおた 牟田 静香氏

限られた予算で効果の高い講座・イベントや会議などを企画、運営するために、多くの担当者が頭を悩ませていることと思います。そこで今回は、これまで行列のできるヒット講座を数々企画してこられた牟田静香氏をお招きし、効果的な企画・広報の方法、手法や運営のあり方についてお話しいただきました。

『よい企画と広報において最も大切なことは、①ターゲットを徹底的に絞ること②ターゲットの心に響くゴールの見えるタイトルをつけること③担当者の熱意と努力である』。この言葉は、これまで多くの失敗を繰り返し、そのたびに新たな発想で取り組み応募率、受講者の満足度の高い講座やイベントを数多く企画するなど成功を収めてこられた経験に基づくもので、牟田氏の自信が感じられ、大変説得力のあるものでした。そして、それは決して牟田氏だからできることではなく、『誰でも強い熱意があれば同じように成功を収めることができる』ということばに、多くの方が共感されたのではないのでしょうか。

また、講演後も受講者からの質問に丁寧に対応していただき、講座やイベントに対する牟田氏の熱意が感じられ、短時間で多くのヒントを伝えていただくことができました。受講者の皆様におかれましては今回のセミナーから得たヒントを今後の業務に活かしていただければ幸いです。



～第70回マッセ・セミナー「社会的弱者への理解と共感」～

日 時 平成21年1月9日（金） 15:00～17:00

講 師 作家・有限会社「アミダ」代表取締役

NPO法人「WANA関西」代表理事 藤木 美奈子氏

親から虐待を受けること、結婚相手からDVを受けることはたいへん恥ずかしいことであると思いき、それを自分の心の中に封印して社会とのつながりを断ち切ったり、自分自身の尊厳を失ってしまう人が多いと聞きます。そこで、今回のマッセセミナーは、ひとりでも多くの人に希望を与えたいという想いをもって活動されています藤木美奈子氏をお招きし、「困難を乗り越えた人にしかできないこと、語れないこと」について、自らの体験を語っていただきながら、行政に携わる者一人ひとりがそれぞれの立場で住民、特に社会的弱者といわれる方々の視点に立った、心の通った対応の必要性についてお話しいただきました。

2時間近いセミナーの大半は、講師の体験談でありましたが、DVの被害を受けている間は、自立などできるはずがない。行政などの相談窓口の方はよく、『なぜ逃げないの』という問いかけをされるが、DVを受けている者は、そのDVは『自分自身が悪い』、『なぐられないように自分の感情を押し殺そう』など、その日その日を暴力から逃れることしか考えられない。これらの感情から解放され、自分自身を取り戻してからが、本当の自立への始まりとなることを訴えていました。

受講者のアンケートには『ご自身のご体験を踏まえたお話で説得力があり、とても勉強になった』、『支援施設での自立へのプログラムをもっと聞きたかった』、『時間が短かった』など、たいへん有意義なセミナーであったという意見が多数ありました。



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567

掲 示 板

* 研修受講者レポート ⑦ *

～自治演習を終えて～

和泉市ひと・まち創造部企画経営課 土本 修一

今年で就職20年目、また本厄という節目を迎え、何か非日常的な刺激を求めている折、この自治演習の受講者募集の記事に触れました。

1市1～2人限定。論文提出。10人選考。大阪大学大学院の履修資格が取得できる。これらの謳い文句は、私にとっては十分すぎる刺激でした。

「これは、やらかなあかんやろ」というのが最初の印象でした。

論文を作成中、同僚の職員と会話していたところ、彼も論文を提出するとのこと。「どちらか1人が落選する」この危機感は、私の情熱をさらに駆り立てるものとなりました。

結果は、2人とも選考され、晴れて「大学院生」に。

演習課題は、第1回目の「医療制度改革の立法政策的検討」に始まり、最終の第6回目が「市町村の行財政改革」です。課題は、自分たちが提出した論文内容に応じて事務局と大学で設定いただくという、受講生にとっては、とてもやり甲斐のある演習です。

演習内容は、担当教員から課題と課題図書、アプローチの視点のみ提示いただき、受講生各自で他の文献や各市町村の実情などを調査・分析し、発表する形式です。中でも私が担当させていただいた「地方議会」の演習では、現在の地方制度を憲法論から見つめ直すというもので、目先の事象にとらわれず、物事の本質を見極めながら求められる制度の選択肢を一つ一つ丁寧に探し出すことの大切さを再認識することができました。

このことは、「自治法にこのように書いているから」「行政実例・判例でこうなっているから」という論理構成ではなく、そもそも本質的にどうなのか、なぜそのような実例・判例が出されているのか、という最も根幹に関わる部分を議論することの大切さを教わった気がしました。

このように申し上げますと、非常に難解なものと思われがちですが、そこは担当教員のアドバイスやコーチングにより、とてもシンプルな部分へとリードいただけるというもので、毎回違った迷路に飛び込み、気がつけばゴールしていたという、とてもスリリングな演習です。

近年、私たち地方公共団体の職員にとっては、地方分権時代にふさわしい政策形成能力のさらなる向上が求められていますが、この演習を通じて、既存概念を振り払うことの難しさと大切さ、そして事実に基づく多角的なアプローチ、弾力的な発想を培う「きっかけ」をいただくことができました。

最後になりましたが、今回の研修でお世話になりました大学院の先生方、各市町村の受講生の皆様、事務局の皆様に心から感謝を申し上げます。



【問い合わせ】 マッセ OSAKA 研修課 TEL:06-6920-4567

掲 示 板

マッセOSAKA研究紀要 * 公募論文表彰式 *

マッセOSAKA平成20年度公募論文表彰式を、平成21年2月3日（火）にマッセOSAKA 5階の特別研修室で開催しました。

今年度は、論文部門1編、エッセイ部門5編の合計6編の応募があり、審査にあたっては、当センター所長 齊藤 慎をはじめ、帝塚山大学大学院法政策研究科教授 中川 幾郎氏、早稲田大学大学院公共経営研究科教授 稲継 裕昭氏による厳正な審査が行なわれ、審査員の先生方からの評価は、「実務担当者ならではの現場の実態に即している」、「日ごろの業務に対する熱意が伝わるものである」という高いものでありました。なお、各賞は下記のとおりです。

表彰式では、当センター所長より賞状と賞金を手渡され、表彰式終了後、受賞者のみなさんは所長と事務局を交えながら、今回応募しようと思ったきっかけや執筆に当たって苦勞された点などを、なごやかな雰囲気の中で談笑されていました。

なお、今年度に引き続き、来年度も論文部門・エッセイ部門の部門別での募集を予定しておりますので、多くの方からのご応募をお待ちしています。



【受賞者一覧】

論文部門

	標題	所属	氏名
審査員特別賞	自転車の利用環境整備と信頼社会に関する一考察	枚方市	古川 清博

エッセイ部門

	標題	所属	氏名
優秀賞	行政組織（とくに福祉部門）について考えること	羽曳野市	細井 正人
優秀賞	子どもが笑うということ	吹田市	今峰 みちの
審査員特別賞	方法的学究論	泉佐野市	奥山 善之

【問い合わせ】 マッセOSAKA研究課 TEL:06-6920-4565